

# モスクへのデマを信じないで！ 神戸・ムスリムモスクを訪ねる

## 広がったデマ

昨年の10月ころから、SNSにこんな書き込みが広がりました。

### #モスク建設反対

モスクが建つと言葉の通じない外国人があつという間に増えます。

騒音、レوپ、ひき逃げ……

治安悪化どころではありません。

日本人が住めない街になってしまいます。

藤沢市の宮原地区には以前からイスラム教の礼拝施設である「モスク」の建設計画がありました。地元説明会も開かれ建設申請も適法に行われていましたので、特に問題とされることもありませんでした。

しかしこの書き込みが広がると、市役所にはモスクに反対するメールや電話が殺到するようになります。建設予定地周辺にはビラが撒かれ、モスク反対を訴える街頭宣伝が行われるようになりました。

このモスクに関する真偽も定かでない情報を流していたのは誰だったのでしょうか。

市議会に送られてきた「藤沢モスク建設反対の会」を名乗る団体の住所を見て、私たちは愕然としました。「東京都武蔵野市」  
**藤沢モスク建設反対の会**  
〒180-0003 東京都武蔵野市

もちろん武蔵野市民が藤沢の課題に意見を言うてはならない、ということはありませんが、藤沢の状況をどれほどわかっているかは怪しいものでした。

しかしこうした宣伝が続くと、最初は問題に思わなかった地元の人たちにも「不安」が広がります。市議会にもモスクに反対する陳情が出され、市内にはモスクを巡って様々な声が飛び交うようになりました。

## なぜ「不安」が生まれるのか

「モスクができると犯罪が増える」というのは事実なのでしょうか。いま日本には170ほどのモスクが

ありますが、そんな話は聞いたことがありません。

数年前、横浜で障害者のグループホーム建設を巡って反対運動が起きました。

ホーム建設に反対する人たちは建設予定地の周辺にこんな旗を立てました。



「地域住民を守れ」「子どもたちを守れ」  
障害者のグループホームができれば「犯罪が多発し」「治安が悪化する」と言うのです。

今回のモスクをめぐる言説と、うり二つです。

念のために申し上げますが、当該のグループホームができてから数年経ちますが、犯罪が起き治安が悪化したという事実は一切ありません。

なぜ「〇〇ができると犯罪が増える」「治安が悪化する」といった話が持ち上がるのでしょうか。

ホームに反対した住民の多くは実際には障害者に接したことがなく、ありのままの姿を知らない人たちだったそうです。だから漠然とした不安を抱き、一部の声高な反対の声にその不安を増幅させていったのです。

もちろん、知らないものに不安を抱く人たちの気持ちはわからないわけではありません。問題なのは、そのような「デマ」を意図的に拡散させる者たちです。

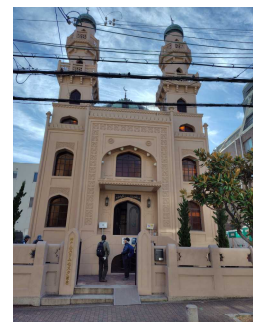
私たちは真偽も定かでない情報を鵜呑みにするのではなく、冷静に「事実」を知り考えることが必要です。

## 「神戸ムスリムモスク」を訪ねる

そもそも「モスク」とはどのようなところなのでしょう。私は実際にモスクを訪ねてみることにしました。

私が訪ねた神戸ムスリムモスクは1935年に建てられた日本最初のモスクです。

イスラム教徒の方だけでなく地元の人たちからも長く親しま



神戸ムスリムモスク

れてきました。

阪神淡路大震災の折には避難所にもなり、今では神戸の観光地のひとつとして連日多くの見学者が訪れています。

お話を聞かせてくださったモスクの責任者の藤谷勇介さんは、実は日本人です。意外に思われるかもしれませんが、日本には約40万人のイスラム教徒がいて、そのうち5万人は日本人なのだそうです。

藤谷さんは藤沢で起きていることもご存じでした。

「知らないものができることを不安に思う気持ちは私も良くわかります。でも、だからこそ知ってほしいです。モスクがどんなところで、イスラム教がどんな宗教か。私で良ければいつでもお話しします。」



藤谷勇介さん

藤谷さんは穏やかな口調で話してくださいました。

「日本にモスクができて90年になりますが、いまだ『モスクができて犯罪が増えた』などと言われたり、問題になったことはありませんでした。

それが去年の夏ころから急に『モスクは怖い』などと言われ出したのには、私たちも戸惑っています。」

藤谷さんは、少し悲しそうに話してくれました。

いただいたイスラム教のパンフレットには、「イスラム教徒が大切にすべきこと」としてこうありました。

人々に奉仕すること、善を行うこと、悪を避けること、親切であること、愛情深く寛大で思いやりを持つこと。

宗教の教えとは“社会道徳”でもあります。「善を行い悪を避けよ」という教えを守ることによって神様が人々を天国に導いてくれる、それがイスラム教の考えです。

実際、イスラム教徒の子どもたちが多く通う学校の先生たちは、その子たちや保護者の皆さんのことを「とても真面目な人たち」と口を揃えます。

私が聞く限り、一部の人たちが喧伝している「恐ろしい」姿はまったく浮かんできませんでした。

## 私のお父さんやお母さんはそんなことしない

一方的に「犯罪予備軍」扱いされてしまったイスラム教徒の方たちは、いまどんな思いなのでしょう。

先日、ある小学校の先生からこんな話を聞きました。その小学校にはイスラム教徒の子どもがおおぜい通っているのですが、遠足で小田急線の駅に行ったところ、声高にモスク反対の街頭宣伝をしているグループに遭遇してしまったそうなのです。

あまりの酷い内容に、子どもたちは大変なショックを受けました。

「怖い」「ぼくたちは藤沢にいてはいけないの？」すっかり怯え、元気をなくしているとのことでした。

別の学校では「私のお父さんやお母さんは、そんな悪いことしないもん」と、泣きながら先生に訴える子どももいたそうです。

そして、友だちが涙を流す姿を見た日本人の子どももまた、ショックを受けていると言います。

子どもたちにそんな思いをさせる運動に、どんな大義があるのでしょうか。



神奈川新聞 2025.12.5

## 市議会、全員一致でモスク反対陳情を否決

突然降ってわいた「モスク反対」です。では、その運動の中心にいた武蔵野の人物とはどんな人だったのでしょうか。

「藤沢モスク反対の会」の会長を名乗るK氏は、前回の武蔵野市議会議員選挙に「NHKから国民を守る党」から立候補し落選していたユーチューバーでした。

「NHK党」と言えば、党首の立花孝志氏は先の兵庫県知事選で「事実無根の宣伝を繰り広げ元県議会議員を自殺に追いんだ」として名誉毀損罪で逮捕され勾留中の人物です。

K氏とNHK党との現在の関係はわかりませんが、真偽の定かではない情報を平然と拡散させて動画の視聴回数を稼ぐスタイルは、立花氏を彷彿とさせるものがあります。



神奈川新聞2025.12.4

12月に開かれた藤沢市議会常任委員会は、K氏や彼の同調者を含むモスク反対の請願・陳情をすべて不採択・趣旨不承としました。

モスクの建設手続きは適法に行われており建設を認めない理由はないことに加え、反対理由に根拠に乏しい主張が数多く含まれていたことも、議員の判断に影響を与えました。

冷静な「事実」に基づく論議は、ぜひ必要です。課題があれば話し合いの中で解決していくべきでしょう。

しかし、デマ宣伝を繰り広げて子どもにまで深刻な心の傷を負わせたり、イスラム教徒の人たちを侮辱したような手法は許されません。

どうかモスクに対するデマを信じないでください。私たちは「共に生きる」まちづくりを進めていきます。